

地域ケア会議で

「つながる」「わかる」「広がる」しくみを目指して

令和6年度地域づくり加速化事業 市町村伴走支援を受けて



めむろ

芽室町役場高齢者支援課

地域包括ケア担当・統括保健師

わがまち芽室町

総人口 17,773人

65歳以上人口 5,492人 (高齢化率30・9%)

75歳以上人口 3,137人

要支援・要介護認定者数 1,115人 (認定率19・9%)

日常生活圏域：1 圏域

地域包括支援センター 委託1か所



513.76平方キロメートル

(東京ドーム約1万1千個分の面積)



×1万1千個

とかち平野



スイートコーン生産日本一



ゲートボール発祥の地



地域づくり加速化事業エントリーの背景

第9期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の期間がスタート
町の課題は深刻に…必要な取り組みはたくさん！

地域交通
(高齢者の足)

感染症蔓延
による影響

支援困難家庭

介護人材不足

認知症
精神障害

課題の把握・解決の手法として、地域ケア会議の機能

(芽室町地域ケア会議設置要綱)

第2条(会議の内容)

—(略)—

(4)高齢者等に共通する課題の把握に関する事

(5)地域における介護の提供に必要な社会資源の改善及び開発に関する事

(6)地域における自立した日常生活の支援のために必要な施策及び事業に関する事

23回

令和5年度に行った地域ケア会議の回数
個別会議22回・推進会議 1回

会議を通して課題把握・解決に至っていないのでは???

伴走支援への期待・わたしの願い

困りごとを中心に**みんな**で協議したい

高齢者のことは、高齢者政策担当・関係機関で考える雰囲気

➡高齢者をとりまく地域のことを、「**わがごと**」として話し合う事ができる関係づくり

つながる

町の課題を**地域ケア会議**の場で明らかにしたい

「困った、困った」で終わる会議

➡困りごとから「**地域の課題**」を見出す会議づくり

わかる

地域ケア会議から**必要な取り組み**へ

地域ケア会議をすることが目的

➡地域ケア会議を手段とした「**社会資源の見直し**」「**政策づくり**」

広がる

成功体験を積み上げたい

第1回現地支援「事業の目的共有・それぞれの取組み理解」

令和6年9月6日(金)

午前「打ち合わせ」

芽室町

コアメンバー(2人)

支援チーム

篠原アドバイザー

北海道厚生局(2人)・北海道庁(2人)

十勝総合振興局(2人)

午後「意見交換」

芽室町

高齢者支援課(介護保険係・在宅支援係・介護予防係)

健康福祉課

公立芽室病院(地域連携室)

委託地域包括支援センター

支援チーム



【厚】地域づくり加速化事業の概要

【コ】現状・課題として感じていること
地域ケア会議の実施状況等

【ア】芽室町の事業・関連等意見交換
他自治体の取組み紹介
KDB帳票からの読み取り

第1回現地支援 「事業の目的共有・それぞれの取組み理解」

気づき①

地域ケア会議は、個別会議と地域ケア推進会議いずれも実施しているが、それぞれの**役割・連動性に課題**がありそう

次のステップ①

個別会議の持ち方、その後の**推進会議につながる仕組み**を見直す必要がある

気づき②

複数の課、係の事業それぞれで丁寧に事業が行われている。課題や目的を共有し連携した取り組みがあると良いかもしれない

次のステップ②

地域ケア会議の中で、それぞれの取り組みを振り返り、共通する課題を話し合ってみたい！

参加者の気づき・感じたこと(一部抜粋)

- ・資源やサービスの整備は進んでいるが、ニーズが多様化していて対応できていない。
- ・課題を積み重ねて対応策を施策化する部分が弱いと思った。
- ・課が分かれていることでお互いの仕事が認知されないままになっている。こういった会議の場に複数の課が参加できると良いと思った。
- ・今取り組んでいることが話題の中心となりがちだが、より広い視点でとらえることが必要と思った。
- ・課題は積みあがっているので、何か一つでも見直し改善できると良いなと思った。
- ・もっと事業所などとも話し合ったほうが良いかと思う。

第2回現地支援「個別会議の実施・町の課題を話し合う」

令和6年11月13日(水)

午前「個別ケア会議」

芽室町

コアメンバー(3人)

委託地域包括支援センター(2人)

公立芽室病院地域連携室(2人)

担当者ケアマネ・訪問介護・訪問看護等(6人)

支援チーム

篠原アドバイザー

北海道厚生局(2人)・北海道庁(2人)

十勝総合振興局(2人)

①個別ケア会議傍聴

毎週水曜日地域包括支援センター主催
の実際の会議を支援チームが傍聴
(複数の課題を抱えた家族の事例)

②会議の振り返り

アドバイザー・支援チームから助言

推進会議に
つながる視点

本人の能力・自立の度合い
を把握する中で、「何が必要
か」検討する

個別会議の持ち方

会議の目的設定
テーマや話し合
いのゴール

適切な参集範囲

記録・ツール活用

これまでの支援の振り返り
の中で**必要な取り組み**をあ
きらかにする

次の会議につながる「**あつ
たらしいな**」をそれぞれが
意見する



第2回現地支援 「個別会議の実施・町の課題を話し合う」

午後「意見交換」

芽室町

高齢者支援課(7人)

健康福祉課(2人)

公立芽室病院地域連携室(2人)

委託地域包括支援センター(1人)

支援チーム

篠原アドバイザー

北海道厚生局(2人)・北海道庁(2人)

十勝総合振興局(2人)

①個別会議実施状況の説明

②ワークシートを活用した意見交換

個人ワーク



ペアで共有

個別ケア会議実施経過からの気づき



①同じケースを複数回協議している

解決に至らない？
地域ケア推進会議につなげる必要性は？



(会議運営・しくみ)

②認知症に係るケース検討が多い

認知症が多い？
認知症の診断や治療につながりにくい？
認知症患者さんへの偏見は？



(認知症予防・支援体制)

③本人や家族の抱える課題が複雑

関係する部署や担当者が多い？
これまでに介入するタイミングは？



(情報共有の仕組み・連携)

3つのグループで再度検討



第2回現地支援「個別会議の実施・町の課題を話し合う」

①同じケースを複数回協議している

解決に至らない？
地域ケア推進会議につなげる必要性は？

複数回協議することになる理由

- ・会議に加わったほうが良い関係者が多いのかも。
- ・認知症や精神疾患では本人の意思決定が難しく、方向性が変わるので何度も協議が必要になる。
- ・キーパーソンがいない、本人や家族で決められない背景がある。
- ・情報の整理や役割分担がうまくいかない。
- ・担当職員が代わったり、課題が変化する。
- ・1回で課題を整理できない複雑なケース。
- ・「除雪」など大きな課題になると話が進まなくなる。
- ・協議した後の経過や情報共有の仕組みがない

複数回でも仕方がない

複数回協議するメリット

- ・都度集まることで、必要なメンバーを加えながら情報共有できる。
- ・都度これまでの経過を振り返ることで気づくことがあると思う。

個別ケア会議の運営方法

- ・情報共有・検討する時のゴール設定を決めておく必要がある。
- ・早い段階で全体の課題を明らかにしたほうがいいのではないかと。
- ・目先の課題解決でなく「あったらいいな」「○○だったら良い」という支援での意見交換。
- ・ケースの振り返りの機会の設定。(同じ課題で何度も協議している、毎回同じ調整をしていることもある)

地域ケア推進会議につなげるために

- ・「支援方針」「次回検討」「推進会議で議論」などの対応方針の整理を行う。
- ・ケース対応が終了した場合にも経過を振り返り、どんな支援があったら良かったかという視点で検討する。
- ・個別ケア会議の実施主体である地域包括支援センターと、地域ケア推進会議の実施主体である高齢者支援課との情報共有や記録・報告様式などを見直す。

こうしてみたら良い
必要な機能・しくみ

③本人や家族の抱える課題が複雑

関係する部署や担当者が多い？
これまでに介入するタイミングは？

【関係する部署・担当者について】

- ・協議体の構成団体にJA等様々な団体が入ると、課題解決の手法が広がる。
- ・役場の中でも公営住宅や税務等高齢者の生活の変化に気づきやすい部署との連携
- ・担当者が多くてもそれぞれ情報共有して同じゴールに向かうことが大切・それぞれの視点で支援できることがメリットでもある。
- ・担当者同士の情報共有の手法がまちまち。タイムラグが生じる。
- ・身寄りのない方の支援・対応が増えている。担当者の負担が大きい。

解決策・必要な体制

- ・記録・情報の共有方法の検討
- ・情報共有のためのシステム・ICTツール導入の検討
- ・重層的支援会議の必要性
- ・庁内関係課による意見交換や検討の場の定例化
- ・普段の関係構築+早期介入のしくみ

【介入のタイミングについて】

- ・家族構成の変化や健康状態の変化など、複雑化する前に介入できる機会を持つことが大切。
- ・医療や予防など生活の変化に気づきやすい領域と、福祉の支援者との連携が必要
- ・ハイリスクとなったケースの背景から、複雑化せざる必要支援につなげる振り返りが必要では？
- ・関係構築を行いつつ、介入する機会を待つことも必要。
- ・介入のポイントは人それぞれ。役場ですべてを把握することは難しい困ったときに相談できるよう情報を行き届かせる必要がある。
- ・早い段階で介入に至らず、支援する中で課題に気づくことが多々ある。介入しようとしても本人や家族の同意が得られないこともある。

②認知症に係るケース検討が多い

認知症が多い？認知症の診断や治療につながりにくい？
認知症患者さんへの偏見は？

認知症について普段感じていること

- ・介護保険申請時点では認知症かもしれないという状態(診断はない)。病院で診断や治療を受ける必要性が感じられないのでは？
- ・「あたまの健康チェック」や早い段階で専門医にかかることを本人が希望しない傾向がある。
- ・同居していると認知症に気づきにくい。
- ・受診や服薬管理が難しくなって気づかれることがある。
- ・医師が家族や本人に認知症のことを説明しないで薬を処方している。
- ・早期に認知症に気づき治療することができていない。介入するときには認知症がかなり進んでいることが多い。
- ・家族の認識不足が原因で支援に拒否的になり、関係構築が難しくなることがある。(家族支援・啓発の必要性)
- ・認知症が進行しても町の介護予防教室に通い続けたいこともあり、介護認定や支援を本人や家族が希望しないケースがあった。

今ある取り組み 強化すべき取り組み

- ・認知症の課題を具体的に話し合う機会
- ・認知症カフェなど理解を深める場
- ・病院・地域包括支援センターなどで情報共有する機会
- ・支援者の問題か本人(住民)の問題か、課題の積み上げと整理の機会
- ・かかりつけ医と認知症疾患医療センターとの連絡体制
- ・重層的支援体制による地域づくり・保健と介護の一体的実施推進事業での取り組み
- ・糖尿病の管理(重症化予防)、難聴への対応など認知症のリスクを軽減する取り組み
- ・社会参加への働きかけ(男性への積極的な支援)

あったらいい取り組み

- ・若い年代やこれから親の介護が始まる年代への情報提供の機会
- ・芽室町らしい身近な内容の認知症ケアパス・展示等積極的な普及啓発
- ・病院以外に低いハードルで気軽に相談・チェックできる環境。
- ・認知症があっても生活できるということを知ってもらうことが大切。
- ・認知症希望大使の講演(当事者から学ぶ機会)
- ・認知症になってもサポートがあることを知らせること

認知症について
みんなが課題
と感じている



第2回現地支援 「個別会議の実施・町の課題を話し合う」

気づき①

町の課題を解決するためのネットワーク構築や必要な取り組みは、ケースの思いや能力・人生を把握する中で生まれてくる。

➤個別会議の持ち方次第！

次のステップ①

アドバイスをもとに、今までどおり積極的に個別会議をやっていこう

気づき②

高齢者支援課以外でも**認知症**について課題に感じている。

予防や普及啓発などの取組みを強化する必要性を感じている

次のステップ②

今ある「認知症施策」を目的や対象などで整理してみよう

次のステップ③

みんなの課題として「認知症」を考える場を持とう

認知症をテーマに地域ケア推進会議を実施しよう

第3回現地支援「自分事として認知症施策を考える」

令和7年1月21日(火)

午前「打ち合わせ」
芽室町
コアメンバー(3人)
支援チーム

要介護5の母親(Aさん)と
長女(Bさん)2人暮らし



地域包括支援センターが会議を招集
参加者
・地域包括支援センター3職種
・Aさんのケアマネジャー
・Aさんの訪問看護師
・公立芽室病院連携室
・Aさんの短期入所施設相談員
・高齢者支援課在宅支援係

①前回(第2回現地)支援からの進捗状況

個別ケア会議の実際から(アドバイスを受けての変化)

☆アドバイス・気づき☆

自立支援を意識「できること」に着目

- ・現金での支払いができる
- ・信頼関係のある人の提案を理解できる
- ・地域活動への参加意欲がある
- ・計算や趣味活動など得意なことがある

☆アドバイス・気づき☆

これまでの支援を振り返り必要な資源へ

- ・糖尿病の理解を支援する体制
- ・悪化する前の医療機関と地域の連携
- ・支援者側と関係悪化にならないための対応

☆アドバイス・気づき☆

あったらいいなの視点での協議

- ・Aさんの介護者としてではなく、Bさんを中心とした支援
- ・当事者も参加しやすい認知症カフェ運営
- ・支援者の認知症理解の促進の場
- ・地域の中の見守り・理解→次回の会議

☆アドバイス・気づき☆

今後の方針を決め地域ケア推進会議へ

- ・支援者の認知症理解の促進
- ・認知症支援の基本の明確化(ケアパス)
- ・認知症当事者活躍の場、新しい「認知症観」の普及

地域活動の視点

医療機関との課題共有

関係部署との課題共有

認知症の理解
まずは行政
そして地域へ

②地域ケア推進会議(午後)の進め方・役割分担の確認

第3回現地支援「自分事として認知症施策を考える」

令和7年1月21日(火)

午後「地域ケア推進会議」

芽室町

高齢者支援課長

(介護保険係・在宅支援係・介護予防係)

健康福祉課長

総務課長

住民税務課長

公立芽室病院

(総師長・地域連携室)

委託地域包括支援センター

芽室町社会福祉協議会

支援チーム

篠原アドバイザー

北海道厚生局(2人)・北海道庁

(2人)十勝総合振興局(2人)



○地域ケア会議・地域づくり加速化事業の説明

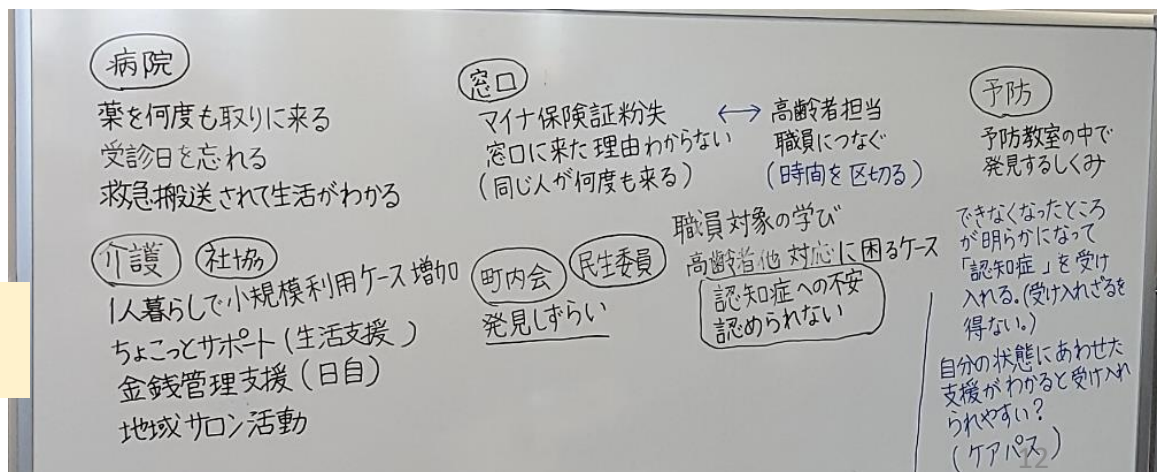
○出席者自己紹介

○今回の地域ケア推進会議に至るまでの経過説明

○認知症施策の概要

○事例紹介 ➤意見交換

認知症に係る困り事を共有



第3回現地支援 「自分事として認知症施策を考える」

○グループワーク

認知症にやさしいまちづくり



感じたこと 思ったこと

「〇〇できたらいいな」

「あつたらいいな」



第3回現地支援「自分事として認知症施策を考える」

○発表

認知症の理解促進

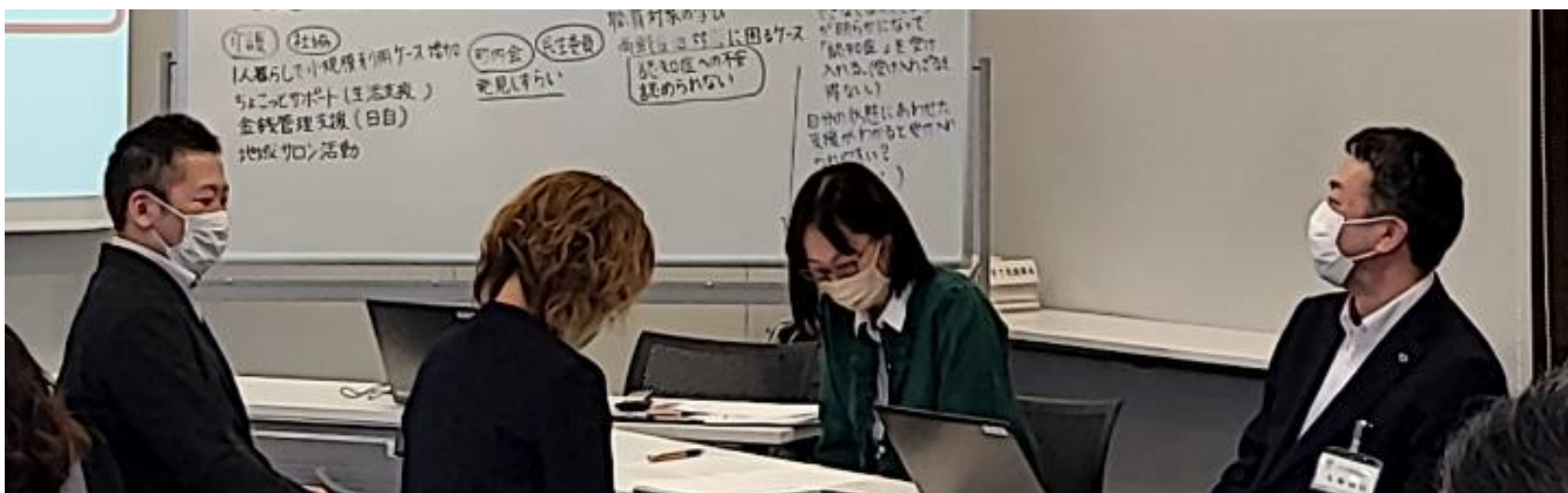
- ・チェックリスト・ガイドブックの活用
- ・役場の地域担当職員制度の活用
- ・出前講座
- ・当事者を巻き込んだ取組み
- ・若い年代への啓発・教育
- ・商店や企業との協力関係・普及

認知症の方への関わり

- ・役場のそれぞれの部署で共有・相談
- ・役場職員の認知症に関する研修
- ・それぞれの機関の丁寧なつなぎ
- ・一人ひとりに合わせた対応・情報共有ツール
- ・役割分担と丁寧な関わり
- ・ユマニチュードなどの技法学習

支援チーム・しくみ

- ・課題を共有する場所が大切
- ・支援者が同じ目標をもってつながるしくみ



第3回現地支援「自分事として認知症施策を考える」

気づき①

認知症について情報を共有したり、話し合う機会の必要性はそれぞれ感じている。

次のステップ①

★形にこだわらず必要に応じて関係者が気軽に話し合う機会を持とう。
(会議の主体や位置づけを考えたり、周知等の準備、記録などに時間をかけない。)
★既存の話し合いの場を活用しながら、話し合いの仲間を増やしていこう。

気づき②

会議の持ち方を工夫することで、前向きな議論や意見が出やすい環境を創ることができる。

次のステップ②

取り組めるものから実行して、その成果を共有する機会を持とう。

気づき③

すぐに取り組めないもの、成果の出にくいものもあるが、既に解決につながるアイデアは出されている。

【支援を受けて】 支援後の取組み・変化

気になること・心配なことを持ち寄る関係

役場の関係課から気になる人の情報が寄せられる頻度が増えた。

- ・窓口で対応していて認知症が心配される人
- ・確定申告に来た時の本人や家族の様子

役場の組織

ちょっと集まって情報共有

繰り返し手続きを忘れて来所する高齢者について、定例で行う個別ケア会議の場所を変えて、参集者を増やして開催した。

その後をフィードバック

生活状況や健康状態などの情報共有

➢ 専門職・関係者の介入のタイミングへ

関係機関

認知症施策

認知症サポーター養成講座の職員研修の位置づけ確認

ユマニチュード出前講座

認知症当事者による普及啓発を検討

地域・住民

【支援を受けて】成果と担当者の思い

つながる

高齢者のことは、高齢者政策担当・関係機関で考える雰囲気

➡高齢者をとりまく地域のことを、「わがごと」として話し合う事ができる関係づくり

会議を通して「こういう場所が必要だよね」とつながる必要性を感じることができた。

地域団体や企業などあらゆる主体とも今後つながっていききたい。

わかる

「困った、困った」で終わる会議

➡困りごとから「地域の課題」を見出す会議づくり

高齢者や家族の歴史を丁寧にひも解き、必要な支援を過去と未来両方の視点で考えることで、解決する必要がある課題を明らかにすることができた。

課題分析の過程に必要な基本的な思考・スキルはほかの場面でも活用していききたい。

広がる

地域ケア会議をすることが目的

➡地域ケア会議を手段とした「社会資源の見直し」「政策づくり」

すぐに解決につながらないけど、「あったらいいな」を共有できた。

「自分だけで行政だけで何とかしなくてはいけない」と思って会議を開催するのではなく「一緒に考えて解決する仲間を作るために集まろう」という意識を持っていこう。

成功体験を積み上げたい

成功体験をこれからも

【支援を受けて】担当者から伝えたいこと

支援チームの皆さん、ありがとうございました。

「お手上げ状態」からのスタートでしたが、篠原アドバイザーをはじめ支援チームの皆さんは私の思いを否定せず丁寧に聞き入れてくださり、あきらめずに最後まで寄り添ってくれました。

伴走のあるべき姿を皆さんを通して学ぶことができました。

「教えを賜る」「今の状態を正される」と感じた場面は一度もありませんでした。

断言できます。

本当にありがとうございました。

これからも事業を通して多くの関係者となつながりを持ちたいです。

地域づくりの完成ビジョンは市町村によってそれぞれで、正解やゴールは存在しないので、行政の経験も専門職の資格も「地域づくり」を行ううえで強みになるものはほとんどありません。

組織の中、地域の中で一緒に取組みをすすめる仲間がいることはもちろんですが、地域づくり加速化事業を通して他の自治体、北海道、厚生局の皆さんと関わりを持てたことが、今後の何よりの強みになると思いました。

これからもよろしくお願いします。

ご清聴ありがとうございました



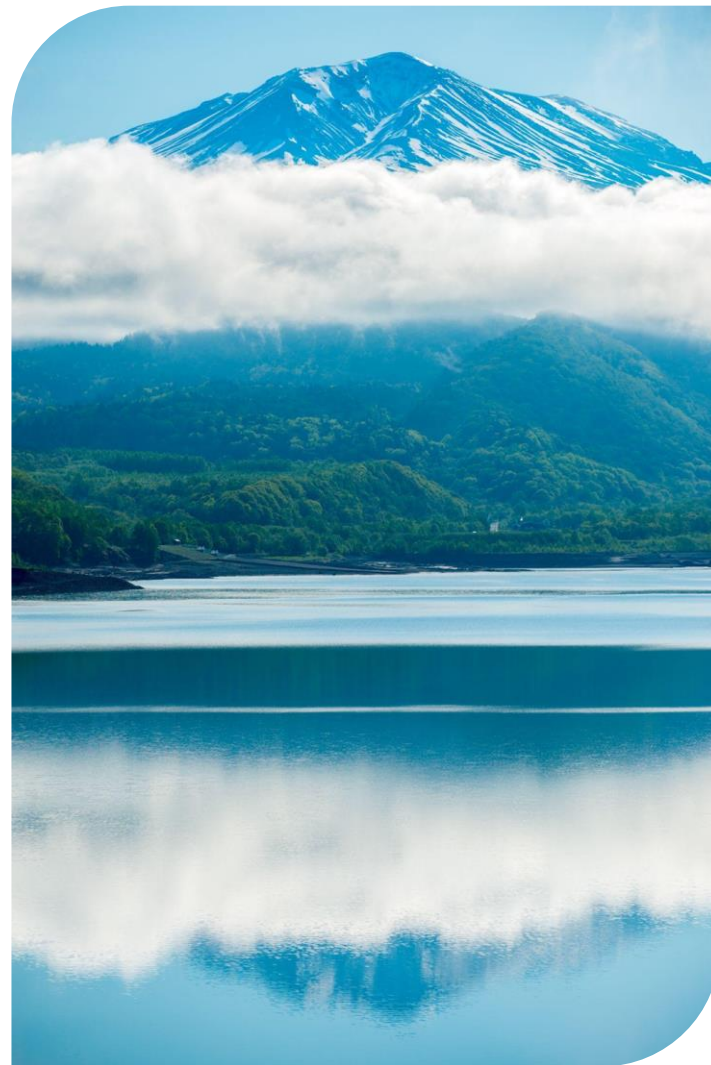
写真文化首都

令和6年度 地域づくり加速化事業を受けて

北海道 東川町 保健福祉課



1. 町の概要
2. エントリーした理由
3. 1 回目現地支援
4. 2 回目現地支援
5. 3 回目現地支援
6. 支援を受けて
7. これから取り組み



1. 町の概要

町の概要

■立地・アクセス

東川町は、**北海道のほぼ中央に位置する、人口約8600人の町です**。東部は山岳地帯で大規模な森林地域を形成し、日本最大の自然公園「大雪山国立公園」の区域の一部になっています。大雪山系の最高峰旭岳（2,291m）は、東川町域に所在。豊富な森林資源と優れた自然の景観が観光資源として高く評価されています。

▼都市部からのアクセスの良さが魅力

羽田空港から町まで：約2時間

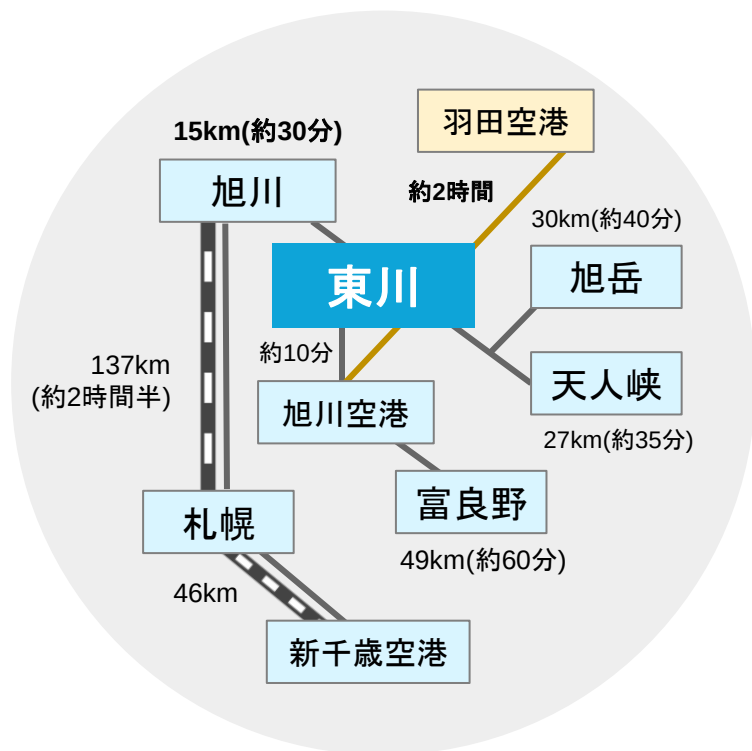
旭川空港から町まで：約10分

旭川駅から町まで：約30分

2025年1月31日現在

人口：8,652人（うち外国人522人）

面積：247.30km²



町の概要 米のまち・田園風景



町の概要 大雪山国立公園：旭岳・天人峡



上水道がなく、「天然水」を生活水として暮らしているまち、東川町。

東川町は、全国的にも珍しい、**北海道でも唯一の上水道の無い町**です。その秘密は、大雪山の大自然が蓄えた雪解け水が、長い年月をかけてゆっくりと地中深くにしみ込み、ゆっくりと東川町へ大切に運ばれてくるからなのです。

東川町で暮らす人たちは、この水を生活水として利用しており、天然の美味しい水で育ったお米や野菜は格別です。また、豆腐や味噌など東川町の地下水を惜しみなく使い、本物の味を追求した加工品や、飲食店でも水の恩恵を受けています。

大雪旭岳源水は、大雪山の自然が創りあげた銘水として知られ、**良質で美味しい地下水に恵まれた中でも最上級の水**です。ミネラルが豊富にバランスよく含まれ、水温も約6～7度と通年を通して一定で、日々こんこんと湧き出ています。（湧出量 1 分間に約4,600L）

【大雪旭岳源水】

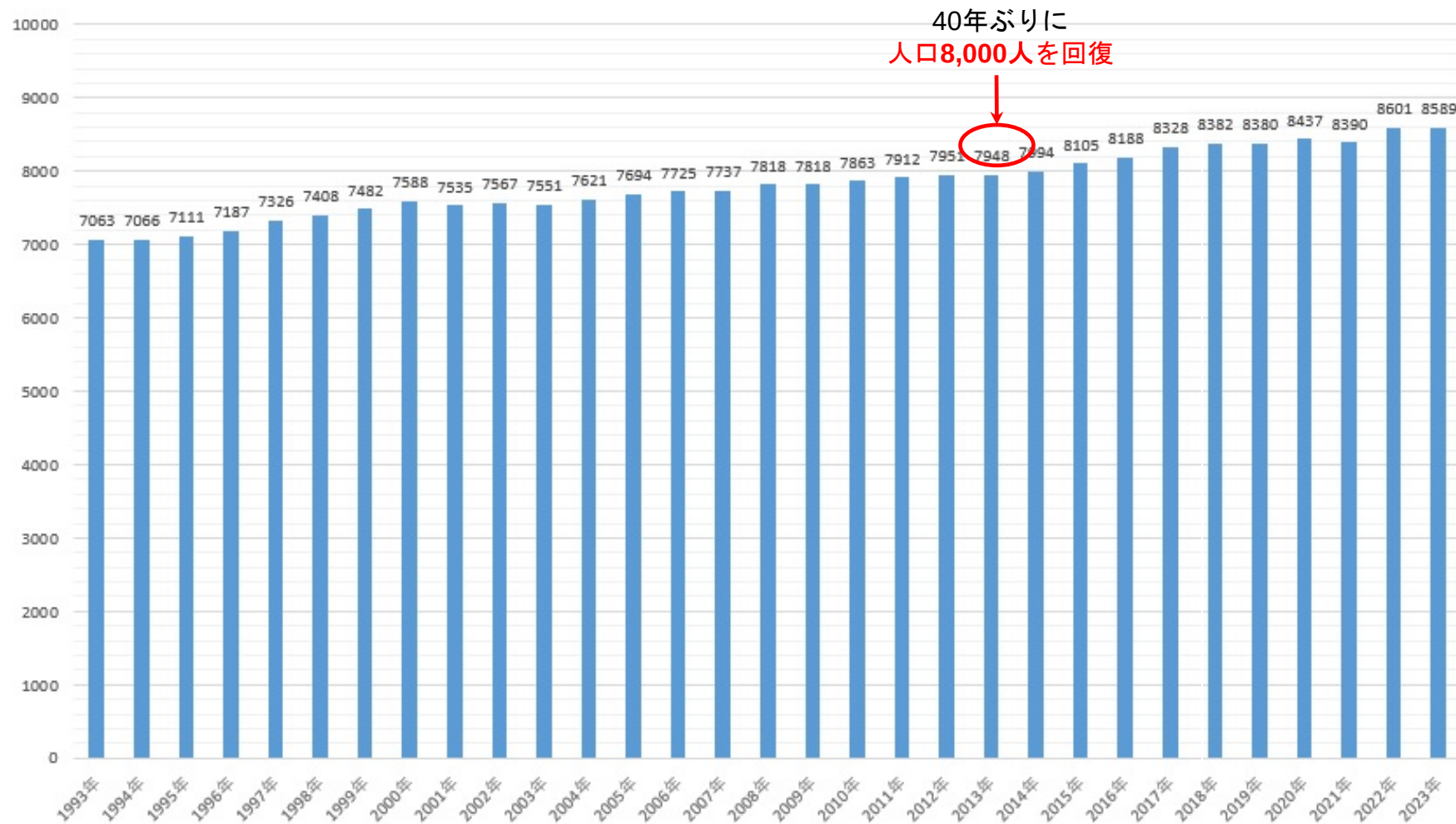
- ・環境省選定「平成の名水百選」（平成20年6月）
- ・特許庁「地域団体商標登録」（平成25年4月）
- ・モンドセレクション・ワールドセレクション最高金賞受賞



町の概要 30年間で人口が約2割増加 | 定住人口の推移

30年にわたって、ゆるやかに人口が増加

東川の人口推移



- ・ 人口 8,652人 (R7.1.31 時点)
- ・ 高齢者人口 2,720人 (R7.1.31 時点)
- ・ 高齢化率 31.4% (R7.1.31 時点)
- ・ 要支援認定数 165人 (R6.12 時点)
- ・ 要介護認定数 381人 (R6.12 時点)

2. エントリーした理由

①総合事業の体制づくり（既存の資源を活かす、新規でつくる） について、アドバイスがほしい

町内の地域密着型の通所介護事業所が経営面から休止になり、高齢者の方の居場所や活躍の場の創設が必要ではないか。総合事業は現行相当しかない。社会福祉協議会への委託事業の中で、通所サービスのようなものがありますが、介護認定を受けている方は対象者から除外となっており、その事業に参加したいがために、介護認定を受けない方もおりました。必要な介護サービスを受けながら、社会福祉協議会で行っている事業に参加することで、より多くの時間を自宅外で過ごして他者と関わったり、福祉用具の利用で在宅での安心した生活がより長く続けられるのではないかと。この事業をいずれ通所型サービスAもしくはBに移行もしくは新たに作りたい。

ただ、どのように進めたらいいのかアドバイスがほしい。

②住民主体のサービスの形成に向けてのステップについて

ボランティアセンターの活性化、ボランティアの方の育成、ボランティアの方に主体になっていただくための進め方のアドバイスがほしい。訪問型サービスBの創出、サービスを提供する方の生きがい、活躍の場の創出につながるかもしれない。

3. 1 回目現地支援

1 回目現地支援

【0.5次ミーティング（8月9日開催）】

○内容

- ・ 町から見た、町の現状と課題、取り組みたいこと
- ・ 1 回目支援の内容について協議

○1 回目支援の方針

- ・ 課題感を共有し、今年度やれそうなこと、将来的にやった方がいいものを出し合い、小さなゴールを設定する

令和6年10月15日開催

○内容

- ・ 町の概要、現状、課題、取り組みたいことを説明
- ・ 町内視察
- ・ 町、町民の方の困りごとの共有

 まず町民の方のニーズを把握する必要がある。町民さんの声、データから現状把握、分析が必要ではないか。協議体がないのもちょっと。

次回は代表者等でなくてもいいので、町民さんも交えてこの地域の課題は何か、何が必要か話し合って、課題感を共有する。

1 回目の現地支援を終えて

- ・ 関係者間で、この事業を通しての取り組みをきちんと共有できていない
- ・ ニーズ把握の重要性を再認識
- ・ 案外町民さんは自分達でできているのではないか
- ・ やはり協議体が必要

4. 2回目現地支援

2回目現地支援

【1.5次ミーティング（11月11日開催）】

○内容

- ・ 2回目支援の内容について協議

○2回目支援の方針

- ・ ニーズを把握する上で、今あるデータ、S Cが拾い集めた情報、町内にあるしごとコンビニや高齢者事業団でどのような依頼があり、対応できないものは何であるのかを知る、当日、町民さんに来てもらい町のことを伺う

令和6年12月11日開催

○内容

〈AM〉

- ・ 町内の資源の確認、PMの町民さんを交えた話し合いの準備
- ・ 町内で既存のサービス等で行き届かない所の見立ては、ごみ出し、通院や買い物、掃除、見守りではないか

〈PM〉：グループワーク 町民4名参加（民生委員、保護司、ボランティア）

〔町民さんから見た課題感等〕

- ・ ごみ出しは、近所で助け合っている所もある、買い物は困っているという声はあまり聞かない、大きな病院への通院時に院内で迷うことがあり付き添いボランティアがあるといい、訪問した際に家に上がっていきなと言われるケースがあり、話を聞いてほしい方が多いのではないかと、食事については配食サービスを利用しても味の問題で止めてしまうケースも多く、冷凍食品の紹介、活用はどうか、一番は移動の問題である

【グループワークを終えて】

- ・午前中に話し合っていた見立てと、少し違った。そこまで困っていない、近所での助け合いがある、移動の問題が大きかった

- ➡ ◎直接町民さんの話を聞いたことで、町が抱えている課題がよりリアルに見えてきた
- ◎その課題は、行政が主導でやるものなのか、町民さんと行政が一緒になってやるものなのか、町民さんが主導でできるものなのか

今回、町民さんの声を聴けたのは貴重な機会となった。

今回の参加者は、民生委員、保護司と役職のある方が多く、役職のない町民さんの話を聞くのもいいのではないか。

2回目現地支援

令和7年1月9日 東川町の未来のためにしゃべる会を開催

ボランティアセンター登録者の方々に声をかけ、7名の方が参加

◎ 2回目現地支援の内容を伝え、町の課題、自分達でやってみたいことについて話してもらう

1グループ

- ・ボランティアの担い手不足
- ・技術を要することは、ボランティアは難しい、話し相手になることはできる
- ・地域資源の周知不足、みまもり訪問というサービスがあるのに、知らない人がいる
- ・交通手段、巡回バスはバス停までが遠い、ドアtoドアがいい
- ・除雪は、請け負ってくれる方が少なくなっている、ボランティアも自分の家で手一杯
- ・ごみ出しはニーズはある、近所の方が代わりに出している所もある

2グループ

- ・ボランティアセンターのことを特に若い人は知らないなので周知をした方がいい
- ・子どもから高齢者まで誰でも集えるコミュニティカフェがあつたらいい
こじんまりとした場所で、不登校の子どもも行けたらいい、そこで大人と関わり、大人同士の会話を聞く機会、家に閉じこもりがちな高齢者の方も、少人数の所なら行きたいということもある、支援者でもあり支援される側にもなる
- ・傾聴ボランティア、お宅を訪問してゆっくりお話を聞く、大人数の中ではお話しできない方の話を聴く、傾聴する前に、聴き方や言うてはいけないこと等の傾聴についての講座を受ける
- ・ボランティアセンターの専門の事務局、事務所を置いた方がいいのでは
- ・ボランティアは無理なく、楽しく、自分からである、無償と有償があるが、報酬があると責任感やプレッシャーが出てくる、有償だと依頼する方も依頼される方もやりやすいこともある

5. 3回目現地支援

3 回目現地支援

【2.5次ミーティング（令和7年1月15日開催）】

○内容

- ・ 1月9日のボランティアセンター登録者の方々との話し合いについて
- ・ 3回目支援の内容について協議

○3回目支援の方針

- ・ 2回目現地支援に参加いただいた方々、ボランティアセンター登録者の方々に来ていただいて、これまでの話し合いの中で出た意見も踏まえ、今後具体的に実施できそうなものは何か、具体化するためにどのようなことを行う必要があるのかグループワークを行う、その後、今後の取り組みについて整理していく

令和7年2月7日開催

○内容

〈AM〉

- ・ 町民の方14名に参加していただき、3グループに分かれて、町民さんが困っていること、具体的に活動していきたいこと等について話し合う

Aグループ

- ・ **みまもり訪問**：相手の話を聴く仕事、相手に深入りしないことで相手も話しやすい、1対1だと話しやすい、特に男性は通いの場には行きたくない
- ・ **空き家での茶話会**：少人数で集まれる場所、少人数だと参加したいという方もいる
- ・ **動物の散歩**：高齢者の方が飼っている犬の散歩を代わりにする（自分でできない方）、事情でペットが飼えない若者とアプリでマッチングする、動物は癒しになり、多世代交流、みまもりにつながる
- ・ **今後について**：具体的に何かってというのは難しいが、地域と行政の協力が必要、何でも行政という訳にはいかない、地域に住む私達ができることをする

3 回目現地支援

Bグループ

- ・ **買い物**：冬期間はシルバーカーが使えない、押し型のそり（荷物を置ける）だと使用しやすい、貸し出しがあればいい（町が購入）
- ・ **話し相手**：傾聴のニーズはある
- ・ **高齢者の集まる場所**：目的はなくおしゃべり、集まる場所は豊富だが、難聴等になったら行きづらい、こじんまりと集まれる所
- ・ **その他**：同じ町内会でも知らない人が多い、集まりに参加しない方にどう声をかけ参加を促したらいいか、独居の方を気にするよう（電気がついているか等）町民の意識づくりが必要、小学生、町民のお互いのあいさつは見守りの一つになっている

Cグループ

- ・ **移動手段**：実証実験しているので、来年度は少し使いやすくなるかも、町営バスはバス停まで遠いので手を上げたら乗れる仕組み、ボランティアと利用したい人の配車のマッチング
- ・ **ごみ出し**：近所で手伝いをしている、資源ごみだと瓶が重い
- ・ **気軽に話せる場所**：こじんまりとした場所、つながりたい、話をしたいと思っている人はいる
- ・ **みまもり訪問**：現状、1時間から1時間半訪問してお話を聴いているケースがある、体調の確認、物は触らない（後々トラブルにならないように）
- ・ **その他**：男性が参加しやすいボランティア活動内容は学習、趣味、興味に関するもの
近所の人とのコミュニケーションは古くからいる人同士の結束力は高い、町内会加入率を上げるには、町内会に入るとこういう良いことがありますよと知ってもらう

3 回目現地支援

〈PM〉

・ AMの振り返り、今後の取り組みについて

- ◎今回、具体的にこうしていきたい、そのためにはどうしていくかという所まではいかなかった
- ◎何でも行政に頼るのではなく、自分達でできることは自分達ですという意見もあり、行政と住民の役割分担、協働について考えるきっかけになったのではないか
- ◎今回も含め数回、町民さんとの話し合いの場を開催してきたが、こういった話し合いの場が今後も継続的に開催していく必要性を、皆が感じていた（町民さんも）
- ◎継続的に話し合いをしていく上では、モチベーションが維持できるようにしていく必要がある
- ◎案外、町民さん同士で助け合っている所もあり、そこを壊さないようにすること、課題を絞り出すようなことになっていないか注意が必要

6. 支援を受けて

①地域づくりの進め方について

まずは地域のニーズや課題、強み等の把握が重要である。住民の方ともニーズや課題の共有を図り、行政主体で取り組むもの、住民主体で取り組むもの、住民と行政が協働で取り組むものの分別をしていく。町民さんが近所で助け合っている所もあるので、取り組みが地域を壊すことにならないように気を付けなければいけない。

町民さんが自らやりたいと主体的に取り組んでもらえるような、環境づくり、バックアップも重要である。継続して活動していくためには、モチベーションの維持についても考えていかなければいけない。

②協議体の必要性

S C や包括、社協職員が、それぞれ町民さんから困りごと等の話を聞く機会があったが、それをきちんと共有する場、町民さんも交えて話し合う場がないため、個々で動いたり、中途半端な対応になっていたのではないかと。町民さんも交えた協議体を開催し継続していくことで、ニーズや課題、役割分担等について共通認識を深めることができる。協議体が上手く起動することで、町民さんが主体的に活動していこうという意識が醸成されていくのではないかと。S C や包括、社協職員も、さらに地域づくりに前向きに取り組めるのではないかと。

7. これからの取り組み

【今後の予定】

◎協議体の設置と定期的開催

まずは、今回声をかけたボランティアセンター登録者の方々を主にメンバーとし、他は民生委員等を検討。その後、検討内容によって、参加してほしい人を追加。

協議体では、目的と見通しを共有し、モチベーションが維持できるように進めていく。

現状把握、今後どうしていきたいか、どういう地域にしたいかを話し合い、行政主体、住民主体、住民と行政が協働で取り組むものを分別していく。まずはその中で、住民の方自らやってみようというものが出来たら、試行、実施していく。取り組みが地域壊しにならないように、課題を無理矢理出さないように、気を付けながら、焦らず進めていく。

取り組みを通して、地域づくりの楽しさ、重要性を体感し、地域づくりに関心を持つ人が増えていってくれたらなあと思います。

支援チーム、事務局の皆さん誠にありがとうございました。

今後もしっかりお願いします。

異動の際はお知らせ願います。



北海道

東川町

— 写真の町 —

写真文化首都

キーワードは 『暮らしきる!!』

～令和6年度地域づくり加速化事業を受けて～

2025.3.6 訓子府町役場福祉保健課高齢者支援係 保健師 下地初美

1. 訓子府町の概要
2. 訓子府町の協議体「ほっとなまちをつくり隊」について
3. 地域づくり加速化事業エントリーのきっかけ
4. 地域づくり加速化事業の経過
5. 地域づくり加速化事業のその後…今後の展望
6. 地域づくり加速化事業を受けて

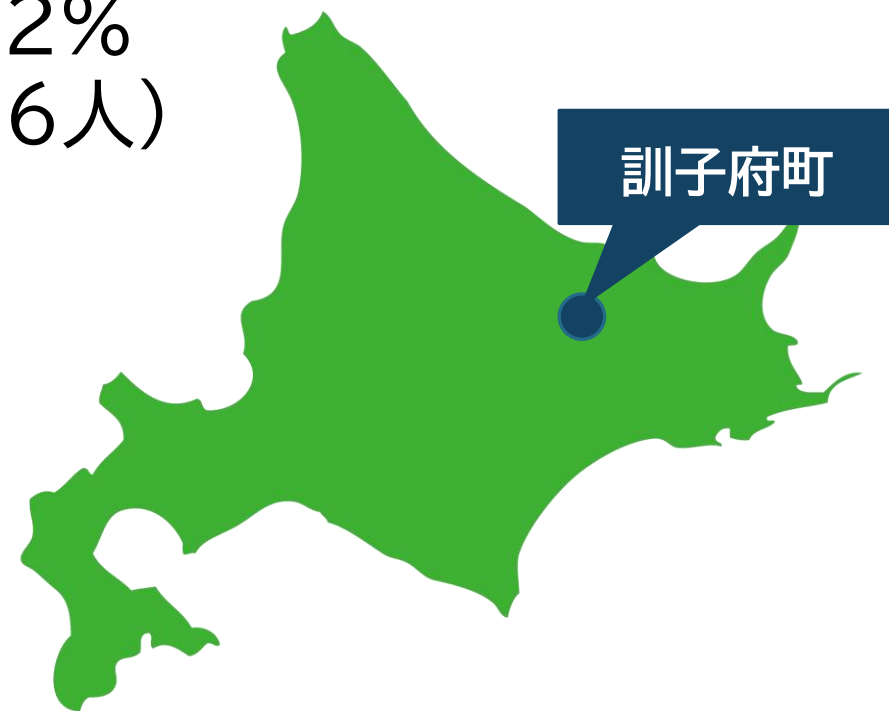
1. 訓子府町の概要

【令和6年3月31日現在】

人口:4,456人

高齢者人口 1,792人 高齢化率:40.2%
(前期高齢者726人 後期高齢者1,066人)

訓子府町は北海道東北部に位置する大雪山系の山々に囲まれた盆地で、町内を流れるオホーツク海に注ぐ常呂川の流れに沿うように肥沃な大地が広がり、農業が盛んな町です。



2. 訓子府町の協議体 「ほっとなまちをつくり隊」について

<ほっとなまちをつくり隊の主な活動の様子>

- H28 協議体設置に向けて学習会等の開催
※学習会参加者から手上げ方式でメンバーを募集
- H29 協議体立上げ 月1回の定例会を継続
※名称もメンバーで決定「ほっとなまちをつくり隊」に
- H30 定例会でミニ学習会や地域の情報共有
※協議体主催のお食事会開催
- R01 定例会では活動のキーワードを「気軽に集まれる場」等に
※お食事会を「ほっと食堂」と名付け2回開催
※協議体メンバーと地域の様々な活動取材→発表
- R02 コロナ禍における「人とのつながりの大切さを再確認」
買い物の困りごとについて話し合った。
- R03 地域の自主活動の再開について情報共有。つながりの大切さを確認する。
- R04 活動目的の再確認→「足」をテーマに→リーフレット作成
- R05 「地域のつながり」をテーマに→ほっと食堂で聞き取り
- R06 公営住宅の警報機の使い方リーフレット作成
※定例会は月1回。コロナ禍は回数減だが、年7～11回開催。



「ほっとなまちをつくり隊（協議体）」の例会や講演会など
町の皆さんとお話をする中で・・・

**「できるだけ長く、
元気に、楽しく
この町で暮らしたい」**

といった思いを聞くことが多くありました。

3. 地域づくり加速化事業 エントリーのきっかけ

住民・協議体メン
バーと一緒に考え
たい

実は前年度からエン
トリーしたい！と考
えていました

住民の思いを
叶えるには
どうしたらいい？

連携できる先は？
(庁内・町内・・・)

アドバイスが
欲しい！

協議体の力を
最大限に
活かしたい！

加速化事業へ エントリー

4. 地域づくり加速化事業の経過

1.0mtg(9/2)住民の思いを確認する

0.5次mtg

1.0次mtg

0.5次mtg

- ★町の概要、課題、取り組みたい事などの共有
- ★1.0mtgの進め方についての話し合い

**「まずは、
協議体メンバーの
話を聞こう！！」**

～その間～

- ＜協議体メンバーへ＞
- ★地域づくり加速化事業へのエントリーについて説明（担当者の思い）
- ★1.0mtgへの参加をお願いする。（ランチミーティングも…）

ふたつ返事でOK！

1.0次mtg

- ★協議体メンバー（町民）の声を聞く機会に…
- ★支援のゴール設定

**「訓子府の良い所・困りごと」
「訓子府でどのように暮らしていきたい？」**

4. 地域づくり加速化事業の経過

・訓子府町の良い
ところ
・ちょっと困ったと
ころ

支援チーム
(厚生労働省・北海道厚
生局・北海道庁・オホー
ツク総合振興局職員)
と町の皆さんで
話し合い

今後、訓子府で
どのように暮ら
したい？

4. 地域づくり加速化事業の経過

人口が少ないから、
目が届きやすいよ
ね

「助け合い」や「声か
け」があるよね

不便さはあるけれど…
「あるもの」で
「何とかしている」

お祭りが減っ
て、危機感を
持っている若
者もいるよ

ドラッグストアがな
かったり、不便な部
分もあるよね

楽しく、寂しくな
らずに暮らし
たい！

ひとりになっても
訓子府で暮らし
たい！

感じたこと>

少し不便な訓子府だけど、工夫をしながら上手に暮らしている！
できるだけ訓子府で暮らしたい！と思っている！

「くんねっぷで暮らしきる」(橋本AD)

4. 地域づくり加速化事業の経過

2.0mtg(10/22)庁内関係者の思い・連携を知る

1.5次mtg

2.0次mtg

1.5次mtg

- ★1.0次mtgの要点整理
- ★2.0次mtgの進め方
- ★2.0次mtgに向けて必要な準備について

**町民の目線で
町のことを話そう
それぞれの仕事を知ろう**

～その間～

- ★庁内関係者へ説明行脚
加速化事業の概要
協議体の様子(動画で)
1.0mtgの概要

**改めて知ってもらう
場をもつことができた！
話合いの場ができた！**

2.0次mtg

- ★庁内関係者と支援チームで意見交換
- ★3.0次mtgに向けた作戦

**「訓子府の良いところ」
「小さな連携があった」
「仕事を通して町のことを知る機会に」**

4. 地域づくり加速化事業の経過

・訓子府町の良いところ
・自分の仕事について

支援チーム
と町の職員
で話し合い

役場の中でも連携
していることはあ
る？

町の人のお思いと
リンクできるといいね

4. 地域づくり加速化事業の経過

各部署間で小さな連携がたくさんある事が分かりました

訓子府町の強み
について住民目線
職員目線で出し合いました

それぞれの仕事を知る事で
住民とともに考えるための
工夫なども出てきました

協議体活動の新たな展開の
ヒントもありました

4. 地域づくり加速化事業の経過

3.0mtg(12/25)住民の思いを一緒に叶える作戦会議

2.5mtg

3.0mtg

2.5次mtg

- ★2.0次mtgの振り返り
- ★協議体事業「ほっと食堂」から見えてきたメンバーの思い。

住民主体！

- ★住民×職員の対話の場を
 - ★3.0次mtg～次の展開も視野に
- 「みんなで企画会議を」**

～その間～

- ★町長・庁内関係者にこれまでの経過を説明
- ★企画会議の意図の意図を伝える
- ★住民が「自分ごと」で話せる工夫を

**事前にテーマを伝え
主体的な参加を促す**

3.0次mtg

- ★企画会議のテーマは1.0mtgで出た言葉にして
- ★話し合いの場が小さな成功体験に繋がれば。
- ★住民、職員それぞれの立場でできる事を考えよう

**訓子府で“暮らしきる”
作戦会議を**

4. 地域づくり加速化事業の経過

庁内関係者にも加速化の
まとめ、3.0mtg「作戦会
議」の意図を伝えました

“訓子府で暮らしきる”作戦会も 会場図

③ “テーマ”
少し不便な訓子府
でも工夫しながら
上手に暮らしたい

① “テーマ”
ほっと食堂で
家庭の味を伝えたい

② “テーマ”
一人になっても
さみしくなく暮らしたい

話し合いテーマの
テーブルにお座り下さい
10名 (所の皆さん 5名と
17名 (支援チーム 5名)

事前に協議体メンバーへ
案内状を送付しました。
(手書きの一言を添えて)

訓子府で “暮らしきる” 作戦会議

にご参加下さる皆様へ

【とき】
12月25日(水)
10時~12時

【ところ】
訓子府町公民館講堂

慣れ親しんだ「訓子府」で最期まで“暮らし
きる“ためには、「どんな風であつたら
い？」等、大好き訓子府で暮らし続けるた
めの作戦会議を行います♪

次の3つのテーマでお話をします。自分の話
したいテーマを選んでください。(席の数に
限りがあるため、第2候補まで選んでくだ
さい)

A: ほっと食堂で家庭の味を伝えたい。
B: 一人になっても寂しくなく暮らし
たい。
C: 少し不便な訓子府でも工夫ながら
上手に暮らしたい。

福祉保健課高齢者支援係 保健師

4. 地域づくり加速化事業の経過

町の皆さん、職員、支援チーム
の総勢36名での作戦会議
となりました

町長から講評を
頂きました





「ほっと食堂」で家庭の味を伝えたい



少し不便な訓子府でも工夫しながら上手に暮らしたい



一人になっても寂しくならず
に訓子府で暮らしたい

A: ほっと食堂で家庭の味を伝えたい

(1) 誰が ほっと食堂
(2) いつ 10月頃(毎年)

・知らない人がある(広報)
→ チラシ配り 開催日の工夫

言子府町の食材を使う

◎ なかなか家で作らない料理を作る
(味+レシピにまつわるエピソードの伝わり)
→ 自分ではできないことをおんなでやる

高齢者・子育て世代
※自分たちでつながりにくい

SNSの良さ、口コミの
良さそれぞれあるね!
活動を知る事で最も直
に感じられるね!

④ 知っている人から広げていく
JAファックス 友人などのつながり
⑤ 児童 子育て支援センター チラシ 町内会
⑥ チラシ設置 町内会 広報誌 → 続けていく

(3) つながるために(縦にも横にも)
(4) 食を考えるきっかけになるとよい、(ほっと食堂に) つくる

同じ料理でも違うレシピ

→ レシピ配るつながり

◎ レシピ集の作成・共有
・ほっと食堂の活動記録
・継続につなげる

◎ 作る過程の動画をとる

・食べている時に見られる 外にアピール
・テレビ・SNSの配信 参加者が増えるきっかけになるかも

◎ 子育て世代の食の情報得る場
・ほっと食堂の子育て世代版

◎ 地域の食の団体との協力で頻度ふやせる?

→ ほっと食堂のメニューから高価な食材をつかってみる

⑦ 今できていることを続ける
→ 協賛数が増えること

⑧ おんなで集まる場所はい

活動を知るだけでもつながれる! 伝えることができる!
「食」を通して、様々な世代や食に関連する人とつながる!

つながることで元気をもらえる!



「ほっと食堂」で家庭の味を伝えたい

B: 一人になっても寂しくならずに訓子府で暮らしたい

町から6km以内は車の運転...
一人になって、車をいかにどうしよう
どこにでも、静かな場所、どうしよう

友人が心配してきて...
1人??

車の運転でできなくなったら

一人で家には
いらぬよ!!

タダのように
便利にできる
もの(サービス)

ライブシェア

肉心で
病気に
なり

年代別の
友達

老人
クラブ

若者から
入るよ!!

集ってしゃべると
困っているよ!!

出掛ける先がある

乗せてくれる人を
一着に行動してくる
人を大切に(友だちを
大切に)

年代別の
友達

年代別の
友達

年代別の
友達

年代別の
友達

年代別の
友達

年代別の
友達

年代別の
友達

年代別の
友達

年代別の
友達

年代別の
友達

年代別の
友達

年代別の
友達

話すうちに
「困った」が
聞ける!

地域デビュー

趣味
ホビー
↑

↑

↑

↑

↑

↑

↑

↑

↑

↑

↑

↑

↑

車がなくなったら...集まりにもいけな
いかも...どうしたらいい?

-
- ・一緒に行ける仲間を大切にしよう
- ・同じ世代だけだと心細いね
- ・若い世代と話してつながれて、お互いの事を知って...

「周りの人がほっとかない」関
係がいいね

病院行く
車いす
生活圏は
北見

ドラッグストア
あたらしいね

高野さん
除雪行ける!!

雪大さ

車があると
バス乗るよ
自分の都合で
できるよ

車いす
生活圏は
北見

ドラッグストア
あたらしいね

高野さん
除雪行ける!!

雪大さ

もちろ
もこれの
便利さ
の良さ

「話し
合い」
多世代で
助けあ
う、つな
がる

後継者の心な農家
北見

北見にあって
訓子府に
ある

困...
迷った
こと

困...
迷った
こと

困...
迷った
こと

困...
迷った
こと

困...
迷った
こと

困...
迷った
こと

困...
迷った
こと

困...
迷った
こと

困...
迷った
こと

困...
迷った
こと

困...
迷った
こと

困...
迷った
こと

困...
迷った
こと

困...
迷った
こと

困...
迷った
こと

困...
迷った
こと

困...
迷った
こと

困...
迷った
こと

困...
迷った
こと

困...
迷った
こと

困...
迷った
こと

困...
迷った
こと

困...
迷った
こと

困...
迷った
こと

困...
迷った
こと



一人になっても寂しくならずに訓子
府で暮らしたい

うらら し、少し不便な訓子府でも工夫しながら上手に暮らしたい

バス停が近くにはないと大変

まち中に生活に必要な店が集まっている、

情報発信(SNS、公報紙)

(中間意識、交流がある)

訓子府のことも環境良い

薬局がない ちあこ心で

歩いて買い物
子ども園に行ける
車なくても生活できる

米田大グミ 玄関前に出すのを
近所の方に手伝って
もらって

北見との距離感、遠くない
必要なものは車に乗って
行ってもらえる

あいつ程度、
住居の方、
発信すれば伝わって
もらえる。

- ◎ 住みやすい、子育てしやすい発信
- ◎ 店をなくさない→自分で買い物する
米田ストアは西に送ってくれるが
店主が高齢化...

薬→北見で買いにいく
ハイパーがこの先もあるのか
スーパーで買えないか、Aコープは、
この先北見で買い物に行けるかが不安

白の出地区 出発後に民生委員が訪問
つながりがない(母子をつなげてくれた
→人と人をつなげてくれる)

子どもバスで買い物
北見のスーパー、大変だった。
車がないと子ども園に連れて行くのも大変

豊坂地区 車必要、市街地なら徒歩でも生活可
住民同士の交流、つながり強い。

子育てしやすい、町外からの車入、移住へのサポート、環境づくりできれば
若い人が住むことが出来る場所
10年後も今の生活が継続出来る

車を手放したことで
の発見！25万円節約
になったよ！

耳が悪く反響がない
不愉快に感じないか
集まりに参加できる
認知症を心配し、
補聴器の購入補助
声かけ、気にかける人

・車がなくなったら…不便に感じる
けどメリットもあるよ！
→知ると不安が減るかも！！
・訓子府にはつながりの仕組みが
ある！
→買い物に困ったら若い人に頼め
る仕組みがあったら面白いね！

「手助けしてもらおう」事が、
相手にとっての活躍(仕事)
に変わることも！
関わることでつながれる！



- ・タクシーの活用(乗り合い、3,000円→300円) 2台、すぐに乗ってくれる人もあり
- ・北見へは家族が連れて行ってくれる
- ・車を手放すと 25万円/年のせつやくになる
- ・音更町 無人バス。

少し不便な訓子府
でも工夫しながら
上手にくらしたい

- ◎ 車を手放した人が、どんな生活をしているのか知ってもらえ、
米田ストアの配達 知らない人も多い。
↓
店主の高齢化、ガソリン代、お店の負担増えそう...
- ◎ シティで西に送ってもらうしかないか...
カタログ見て店にのものは高齢者大変、電話注文
買い物も担ってやる 互いの役割をする 若者
地区を担当し、買い物、西に送
若者と高齢者の交流の機会にも
やりがいを感じられる

協議の場
個人商店、シティ
高校
協議体
便利屋
町、商工会

3回目現地支援を終えて

3グループそれぞれの異なるテーマであったけれど…

【つながりづくり】

ヨコ(同世代)だけじゃない！

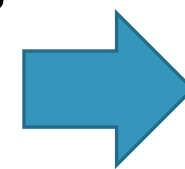
タテ(多世代)のつながりも必要！大事！

【つながりづくり】

難しくなったことを手助けしてもらおう…

苦手なことを得意な人が…

できることを、できる人が…



活躍できる！
元気になれる！

3.5・・・

職員間での復命会

★加速化事業に協力してくれた職員で3.0mtgの振り返りを実施

**話し合いを振り返り
感想を共有しながら
GWの意見を発展させるためのアイデア出し
→年1回はこのような場を**

4.0・・・

ささえあい講演会

★毎年開催している講演会の講師を橋本ADに依頼
第一部：加速化事業の内容も加えた講演
第二部：意見交換

協議体に限らず多くの住民に周知し、町内町外あわせて約50名で「訓子府で暮らしきるための知恵」を出し合いました。

加速化での話し合いを町全体での共有



<ささえあい講演会の様子>

6. 地域づくり加速化事業を受けて

<気づき>

☆話すことや知ることが、つながりの入口になる！

☆話すことや知ることによって、少し不便な暮らしの工夫につながる！

住民の思いを共有できた

「訓子府で“暮らしきりたい”」という住民の思い知りを、住民・職員みんなで共有できた。

住民と職員が同じテーブルで「こうなったらいい」と思う地域づくりについて、フラットに話し合うことができた。

住民が自分事としてまちづくりを考える「ほっとなまちをつくり隊（協議体）」の活動の意味を改めて確認できた。

庁内連携の足掛かりとなった

加速化事業の現地支援により、協議体の活動を中心においた、情報共有など連携のきっかけができた。

- 住民×職員、職員×職員の連携の場を持つ事が出来た。
- 庁内・町内に相談先が増えた。
- 庁内連携のきっかけができた。

協議体の意味付けが明確になった

客観的、様々な視点からのアドバイスを受けて、俯瞰的に事業を見つめ直すことで、住民主体の活動を理解できた。

「ほっとなまちをつくり隊」での話し合いの積み重ねによる「住民の主体的な力」を知る事ができた。

担当者の思い

- ・支援チームとの話し合いやアドバイスにより、自信をもって住民との話し合いや庁内連携に働きかけることができた。
- ・外からの目で、訓子府町の協議体活動に「住民主体」の意味付けができた。

6. 地域づくり加速化事業を受けて

最後に...支援チームのみなさま
とても楽しく前向きに
事業と向き合い
深める機会となりました

ご支援ありがとうございました



たまねっぷ



めろねっぷ

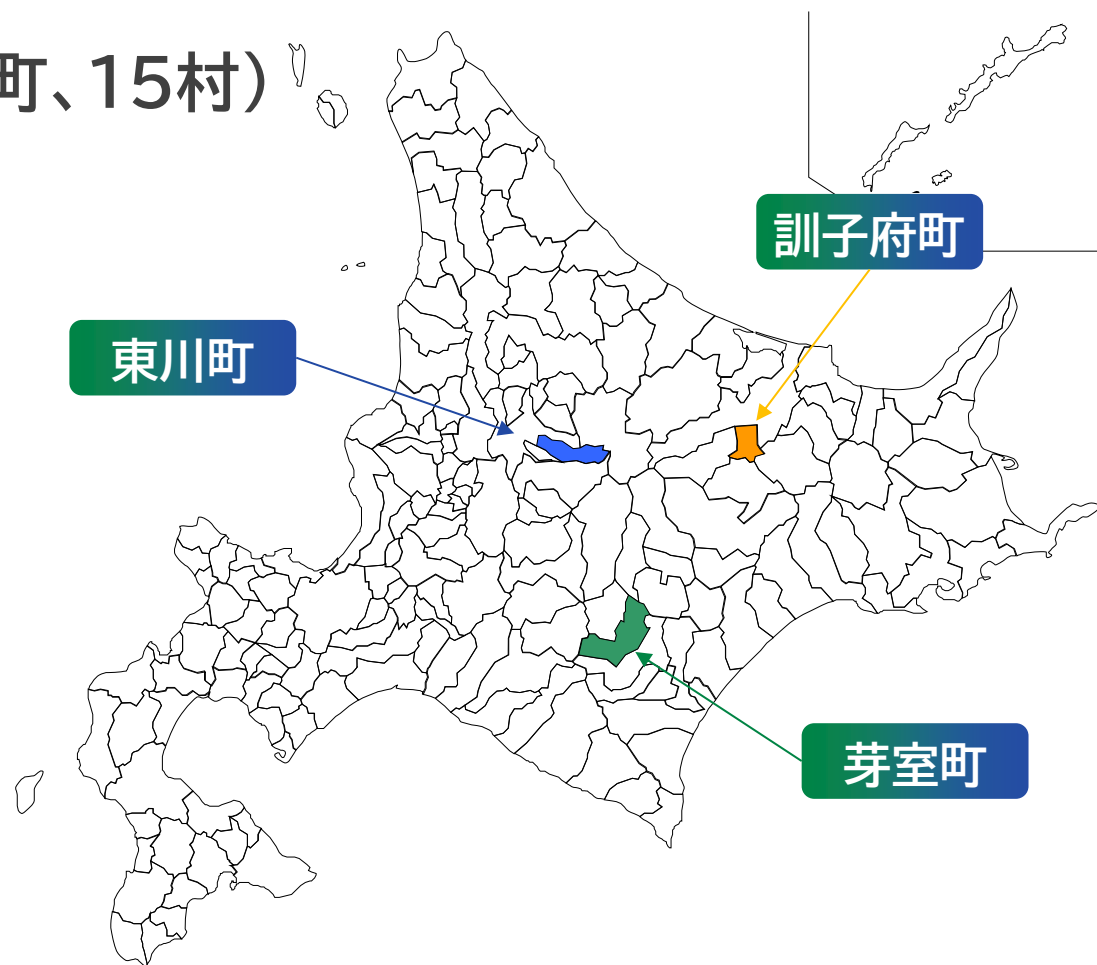
令和7年3月6日(木)

令和6年度 地域づくり加速化事業



北海道保健福祉部 福祉局 高齢者保健福祉課

- 市町村数
179市町村（35市、129町、15村）
- 人口
5,093,983人
- 65歳以上人口
1,668,344人
- 高齢化率
32.8%
- 要介護(要支援)認定率
20.6%



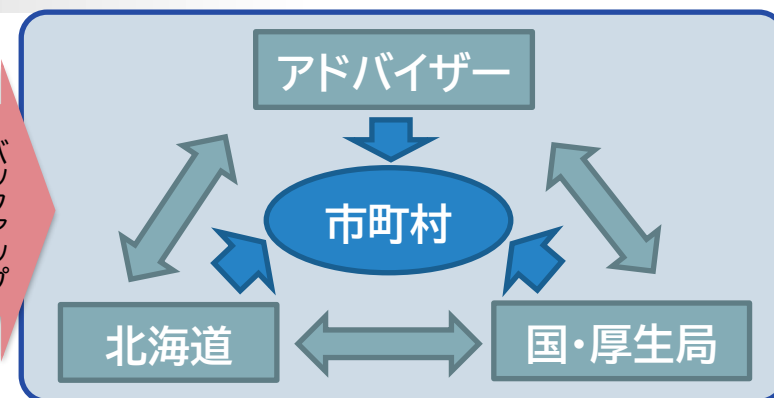
※ 人口・65歳以上人口・高齢化率（令和6年1月1日現在）
※ 要介護認定率（令和5年3月31日時点）

- 本庁(高齢者保健福祉課)
- (総合)振興局
- 道立保健所

14か所
26か所

事務局

バックアップ



市町村	アドバイザー	北海道			北海道 厚生局	厚生労働省
		本庁	(総合) 振興局	保健所		
訓子府町	全国コミュニティライフサポートセンター 橋本参事	2人	1人 (オホーツク)	—	2人	2人
芽室町	一般社団法人 Wellbe Design 篠原理事長	2人	1人 (十勝)	1人 (帯広)	2人	—
東川町	北海道教育大学 教育学部函館校 齋藤教授	2人	1人 (上川)	—	3人	—

現地に出向いた、顔の見える関係

- 住民や役場関係者との意見交換など、現場での空気感を共有
- ミーティング、現地支援を重ねるごとに、市町村と支援チームの関係性が構築

「持っている力」「できていること」にも目を向ける

- 課題やできていないことばかりを見ない
- 今できている力、地域の助け合い(互助)を壊さない視点と関わり方
- 「こうなりたい」「こうなればいいな」を語り合う

庁内連携、関係機関連携のための関わり

- 庁内連携の構築に困っている市町村は多い
- 加速化事業を上手に使う 「厚生局が言っているから」「北海道が言っているから」
- 支援チームが市町村担当者の意見を代弁、後押し

【本事業の横展開】

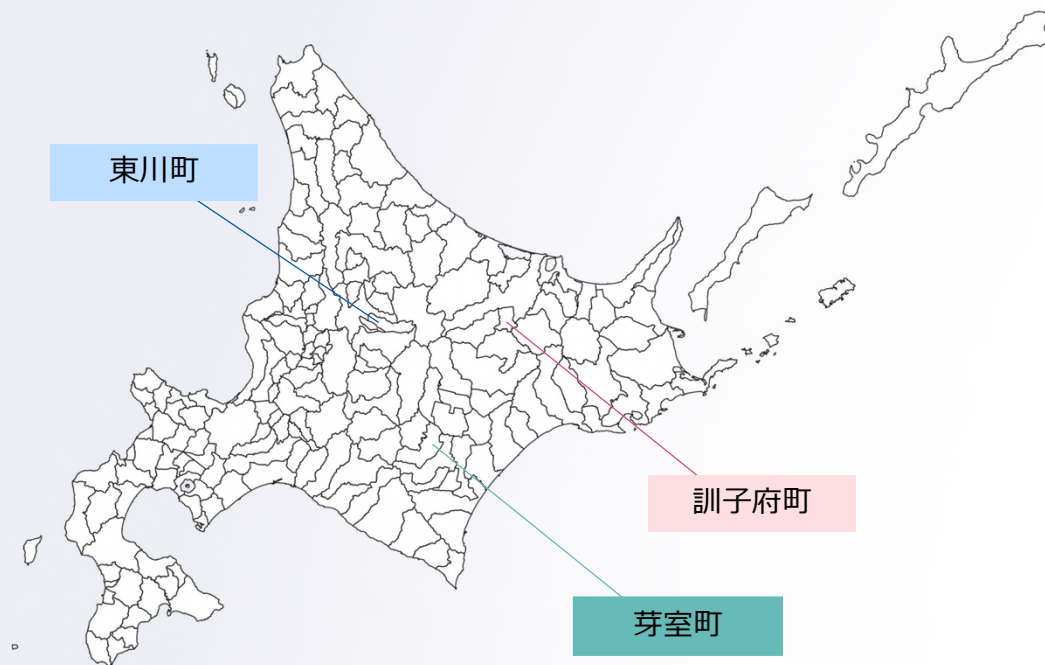
- 全道を対象とした研修会で取組のプロセスや成果を周知
- 圏域市町村等を対象とした意見交換会で情報共有 など

【北海道による市町村支援の実施】

- 各事業におけるアドバイザー派遣
 - ・ 自立支援型地域ケア会議の立ち上げや、既存の会議における具体的な運営方法など、市町村の課題に応じた支援を実施
 - ・ 総合事業や生活支援体制整備の取組に関する助言、地域住民や関係機関等との協働促進のための研修会の講師を派遣
- 住民主体の自主グループ育成支援
- 道立保健所に設置する「介護予防・地域包括ケア事業支援チーム」による支援



R7.3.6
地域づくり加速化事業 報告会



令和 6 年度 地域づくり加速化事業について

- 伴走的支援：北海道訓子府町、北海道芽室町、北海道東川町
- 都道府県ブロック別研修（北海道ブロック）

北海道厚生局 健康福祉部
地域包括ケア推進課

伴走的支援について（訓子府町）

エントリー時の課題感（生活支援体制整備事業）

- ・生活支援体制整備事業の協議体メンバーの固定化・高齢化のため、多様な主体に参加してもらい、協議体メンバーの力を最大限活用したい。
- ・庁内の他部署でも住民参加型の会議や地域づくりに関する事業があるが、連携のきっかけがないため、この事業をきっかけに地域づくりに関して庁内や町内の世代を超えた活動団体との連携を図る足掛かりにしたい。

第1回現地支援（9月2日）

協議体メンバーと支援チームでグループワークを実施。町のよいところ、今度町でどのように暮らしたいか等を話し合い、住民の想いを知る機会になった。

第2回現地支援（10月22日）

庁内関係部署職員を交えて意見交換会を実施。住民の目線で町の良いところ、庁舎内で一緒に考えられそうなこと、できそうなことの意見を出し合い、今後の連携を図るきっかけになった。



3回目現地支援の様子

第3回現地支援（12月25日）

「訓子府で“暮らしきる”作戦会議」と題し、庁内関係部署職員、協議体メンバー、住民、支援チームを交えて、3つのテーマを題材に、テーブルごとにグループワークを実施。最後に町長から講評をいただいた。

本支援による成果

- ・協議体の活動の意義を再認識。
- ・本支援をきっかけに、庁内関係部署の職員と話し合える環境（土台）ができた。
- ・住民との対話を通じて、町の課題や「訓子府で暮らしきる」ための今後の方向性を確認。

伴走的支援について（芽室町）

エントリー時の課題感（地域ケア会議）

- ・地域づくりや高齢者支援に関して、役場内の担当が複数のセクションにまたがっているものの、住民の困りごとの視点から事業を行う機能・役割意識がない。
- ・地域ケア会議については、個別会議と推進会議に連動がなく、推進会議については「やらなければならないもの」として情報共有にとどまっている。

第1回現地支援（9月6日）

役場内の関係者を参集し意見交換を行ったところ、町の課題と感じていることは、みんな同じ認識であること、町にははたくさんの既存資源があることを確認。

第2回現地支援（11月13日）

個別会議を傍聴し、地域課題の把握、課題解決に向けた推進会議に展開するためのポイントをアドバイス。

第3回現地支援（1月21日）

これまでの個別会議の分析により確認された地域課題のひとつである「認知症施策」に関して、支援チームも交えて推進会議を実施。

推進会議においては「認知症理解の普及啓発」や「認知症高齢者にやさしい地域づくり」に向けた具体的な施策・取組のアイデア出しを実施。



3回目現地支援の様子

本支援による成果

庁内連携のもと、個別会議から地域課題の解決に向けた政策の実現までのフローについて理解促進を図ることができた。

伴走的支援について（東川町）

エントリー時の課題感（生活支援体制整備事業、通いの場）

- ・通所できる場所が少なく、訪問看護事業所も人手不足であり、必要なサービスを受けられない人がいる → 通所Aの立ち上げなど、有効な総合事業の体制づくり
- ・住民主体サービスの形成に向けてのステップ → ボランティアの育成、訪問Bの立ち上げ

第1回現地支援（10月15日）

町担当、社協、支援チームで課題感や支援の方向性について話し合いを行った。→ 町として取り組み合いことについて、さらに町内部で話し合っていたことに。

第2回現地支援（12月11日）

AM：既存のニーズ調査と町のサービスを照らし合わせ、課題を整理
PM：AMで検討した課題について、住民の意見を伺い、住民が実際に感じているニーズや解決するためのアイデアをいただいた。



3回目現地支援の様子

第3回現地支援（2月7日）

町担当、住民、支援チームを交えて3つのテーブルに分かれて、今後具体的に実施できそうなこと、それを具体化するためにどのようなことを行う必要があるかをテーマにグループワークを実施。

本支援による成果

- ・町の課題を認識・共有できた → 現状把握、アセスメントの重要性等を再認識
- ・住民との2回の意見交換を経て、町として住民の声を聴く重要性を実感できた

都道府県ブロック別研修（北海道ブロック）について



【講演】「生活支援体制整備事業について－SC・協議体の役割と活動のポイント－」

- ・ 伴走的支援のアドバイザーによる講演
- ・ SC、協議体の役割について、実際に支援にかかわった自治体の事例から活動のポイントを整理して説明
- ・ 地域共生社会への挑戦・・・キーワードは「すべての住民の意識改革」、「わがまちの戦略会議」、「住民参加は多様な層を」、「本業主義とコラボで一石二鳥を」

【情報提供】自治体のヘルスケア課題解決について

- ・ 経済産業省北海道経済産業局（地域経済部 健康・サービス産業課）からの情報提供
- ・ ヘルスケア政策（健康・医療・介護）に関し、経済産業省の役割について説明
- ・ ヘルスケア分野での地域課題の解決に向け、北海道経済産業局での取組について説明

【事例発表＋意見交換】自治体の取組について

- ・ **北海道江差町**から：生活支援体制整備事業（第1層、第2層協議体の歩みについて）
- ・ **北海道美唄市**から：生活支援体制整備事業（市の事業の振り返り、加速化事業の伴走支援を受けて）
- ・ **北海道様似町**から：サービスCの構築（事業立ち上げのきっかけ、介護予防活動普及展開事業を受けて）

※事例発表いただいた3市町の講師とアドバイザーを交えた意見交換を実施